

平成27年度

事業報告書

社会福祉法人 三恵会

事業報告書目次

三恵会本部	1～ 4
特別養護老人ホーム きぼうの苑	5～ 7
障害者支援施設 あゆみ苑	8～10
ケアハウス 夢テラス	11～12
障害者支援施設 三恵ホーム	13～18
デイサービスセンター えぐも	19～20
児童福祉施設 十全保育園	21～23
特別養護老人ホーム ハートランド三恵	24～26
老人保健施設 リハビリステーション三恵荘	27～28
老人保健施設 希望の館	29～30
通所介護事業所 おいでんや	31～33
多機能型事業所 わくわくクラブ	34～35
放課後児童クラブ ともだちパーク	36～37
地域子育て支援事業（ひろば型） にこちゃんパーク	38～40
地域密着型特別養護老人ホーム うみかぜ	41～43
グループホーム かがやき	44～45
児童福祉施設 中萩保育園	46～49
養護老人ホーム 慈光園	50～52

三 惠 会 本 部

平成27年度事業報告

1、経営方針

平成27年度は、介護保険制度、介護報酬、障害福祉サービス報酬の改定や子ども子育て支援新制度の施行、社会福祉法人制度改革の具体化に向けた法改正、制度化が進められ、社会福祉法人を取り巻く環境は大きく変化し厳しさを増しました。

そのような中、三恵会においては、経営の合理化、近代化を進めるために平成26年度から着手した「サービス」・「組織・職員」・「財務・コスト」を柱とする経営戦略計画2年目の年となりました。

「サービス」では、サービス提供の品質管理やサービスの質の標準化を図るため、「食事」・「入浴」・「排泄」マニュアルを作成しました。新人教育にも活用できるよう工夫し、各施設の新人教育担当者への勉強会も実施いたしました。

「組織・職員」では、接遇研修や階層別研修、外部研修の参加により、職員のコミュニケーション能力の向上と協調性、基礎的な知識から専門的な能力の向上が図れました。今後も、研修を通して、仕事へのやりがいを感じ、専門的な能力の向上や組織人としての成長の機会を継続的に得られるよう続けていきます。

「財務・コスト」では、経営状況の把握及び課題の抽出、施設から法人へと資金管理の一元化を視野にいれた予算編成システムの構築、職員数の適正管理に向けたヒアリングを実施いたしました。

三恵会の行動指針「チームワークを大切に」を念頭にグループ施設の連携と理解を高め、職員、自らが考え、改革していく意識が高まりました。結果、報酬が下がった分、「地域の利用者様から選ばれる施設」、「経費削減」に取り組み、それぞれの持ち場で努力の姿が見え、効果を上げております。どのような環境に置かれても、福祉人としての理念は曲げず、経営力を身に付け始めた職員が育ってきた1年でした。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) サービスの改革

①各種サービス提供マニュアルの作成では、7回のプロジェクトを開催し、サービス提供の品質管理やサービスの標準化を行うために、プロジェクト内に専門部会も設置し、3大介護である食事介助・入浴介助・排泄介助の業務マニュアルの見直しを行い、新人職員等の指導にも活用できるものを作成し、各施設の新人教育担当者を集め完成したマニュアルをもとに勉強会を実施した。

②リスクマネジメント（危機管理）実施体制の構築では、4回のプロジェクトを開催し、利用者への安全の配慮、未然の事故防止のため、法人内の事例検証や、リスクデータを報告しやすくするため、様式の見直しを行い新様式での運用や今後の取組み課題について洗い出しをしました。

（2）組織・職員の改革

- ①研修計画に基づき、接遇研修、若年層・リーダークラスなどの階層別研修、各団体が実施する法人外の研修に参加した。（研修計画を参照）
- ②職員の採用について、例年より採用活動の時期を早め、各就職面接会、学校主催の面談会にも積極的に参加するなど活動範囲を広げ、学生へのフォローも丁寧に行った。その結果、18名の新人を確保できた。

（3）財務・コストの改革

- ①27年度は4回のプロジェクトを開催し、26年度から取り組んでいた法人を単位とした予算編成システムの構築のため、資金管理の一元化を含めた本部と施設及び理事長との予算ヒアリング、人員適正化計画の策定に向けて施設とのヒアリングを実施した。

（4）メンタルヘルス対策の推進による働きやすい職場環境の整備

- ①セルフケア推進のためのストレスチェック制度の施行に向け、研修会へ参加し、規程の策定を行い、業務委託契約をおこなった。

（5）マイナンバー制度への対応

- ①平成27年10月開始のマイナンバー制度の開始に伴い、研修会へ参加し、特定個人情報の取扱いについて、基本方針・取扱規程の策定をおこなった。

3. 研修計画

（1）法人内研修

- ①新任職員研修

4月1日～4月2日実施 新入職員19名 （平成26年度11名）

- ②階層別研修

○若年層向け研修 組織人としての考え方～基本行動の基礎～

第1回 平成27年 5月28日 参加者29名

第2回 平成27年 6月25日 参加者28名

- 第3回 平成27年 7月30日 参加者29名
- リーダークラス リーダーシップ研修
- 第1回 平成27年 6月24日 参加者31名
- 第2回 平成27年 7月29日 参加者28名
- 第3回 平成27年 8月26日 参加者29名
- リーダークラス ステップアップ研修
- (平成26年度リーダーシップ研修受講者)
- 第1回 平成27年 9月24日 参加者25名
- 第2回 平成27年10月29日 参加者25名
- 第3回 平成27年11月26日 参加者24名
- 若年層 フォローアップ研修
- (平成26年度受講者の振り返り研修)
- 第1回 平成27年 8月27日 参加者21名

③三恵会研究発表会

第7回三恵会研究発表会を、平成28年2月27日に開催。
各施設の代表がこれまでの業務事例や症例研究内容をもとに発表を行った。

発表演題 12題 ・ 参加者 102名

(2) 法人外研修

- 全国社会福祉法人経営者協議会主催
- ・社会福祉法人経営者研修会 ~人事管理コース~
5月20日～ 5月22日 1名参加
 - ・社会福祉法人経営者セミナー
～社会福祉法人制度見直しを活かすために～
10月27日 1名参加
 - ・社会福祉法人会計実務者決算講座
1月27日 1名参加
- 愛媛県社会福祉法人経営者協議会主催
- ・社会福祉法人経営者研修会
7月13日 2名参加
 - ・社会福祉法人セミナー ～社会貢献活動のリスタート～
8月 5日 1名参加

・愛媛県青年経営者会

10月14日 2名参加

2月10日 2名参加

○愛媛労働局・愛媛県・えひめ女性活躍推進協議会主催

・女性活躍推進法セミナー

11月17日 1名参加

○新居浜市主催

・マイナンバー制度セミナー

10月 2日 2名参加

○中央労働災害防止協会主催

・ストレスチェック活用セミナー

6月18日 1名参加

○NPO法人こころ塾主催

・ストレスチェック導入セミナー

10月20日 1名参加

特別養護老人ホーム
きぼうの苑

平成27年度 事業報告

1. 経営方針

平成27年度は、職員一人一人の接遇能力と資質の向上を図ることを最優先の目標とし、接遇マナーの改善に努め、ご利用者、ご家族に対し、笑顔での接遇応対とコミュニケーションに努めた。ご利用者の情報を共有し、説明力アップに努めると共にご利用者、ご家族からの要望や苦情等については真摯に対応し説明を行うよう努めた。また、介護技術研修を開催し、職員の技術力の向上や資質の向上を図ることにより、介護事故の減少に努めたが、高齢化の進展による要介護度の進行や認知症等による転倒などの事故発生件数は前年とほぼ変わらない結果であった。今後も事故防止に最大限の取り組みを行い、入所者の安全で安らかな生活をサポートできるよう努力していく所存である。

また、昨年度は介護報酬の改定が行われたが、改定率マイナス2.27%と非常に厳しいものであった。前年に引き続き各部署が具体的な目標数値を設定し、達成に向けて努力をしたが、黒字の収支達成にはやや届かない結果であった。引き続き健全な施設運営のため稼働率等の数値実績を上げるべく職員一丸となって取り組んでいきたい。

地域での在宅支援においては、他施設や包括支援センター、訪問介護事業所等他サービス事業者との情報交換や緊密な連携が不可欠である。ご利用者の在宅での健康な生活を維持、支援するための介護計画の立案、担当者会、サービス提供などを積極的に行なった。

感染症については、職員にインフルエンザの感染者が出たものの、職員一丸となって対策に取り組み、ご利用者の感染者を1人も出さなかった。来年度以降も油断することなく感染症対策を引き続き徹底したい。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①「朝の挨拶運動」に職員全員取り組み、正しい言葉遣いと挨拶の励行
- ②苦情、要望等への速やかな対応と対策
- ③災害（地震・火災・自然等）に備えた取り組みと災害毎の訓練
- ④誠実・真摯な業務への取り組みと利用者、家族との信頼関係の構築
- ⑤利用者への最適サービスの提供

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①各部署の連携強化による施設チーム力のアップ
- ②介護事故、苦情等の原因分析と対策
- ③研修による認知症の理解と介護対応の統一化
- ④外部研修の活用と知識・技術の専門性の向上
- ⑤高齢化・虚弱化が進む利用者の特性把握と事故防止対策の徹底

(3) 「堅実な経営」への取組み

- ①介護報酬改定にともなう各種加算への取り組み
- ②部署ごとの稼働率・利用者数等の数値目標への取り組み強化
- ③入所待機者の効率的な入所と入院による空室期間の短縮への取り組み
- ④通所介護事業の営業日増加による収入増への取り組み
- ⑤設備機器のメンテナンス及び修繕

3. 研修計画

(1) 施設内

①三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

②自主研修

4月 身体拘束廃止について	10月 介護施設でのリスクマネジメント
5月 感染症予防について	11月 虐待防止について
6月 食中毒について	12月 接遇について
7月 メンタルヘルスについて	1月 ターミナルケアについて
8月 リスクマネジメントについて	2月 プライバシー保護について
9月 認知症ケアへの対応について	3月 褥瘡防止について

(2) 施設外

①老人福祉施設協議会関係

全国 四国 愛媛県 東予地区 各協議会 四国地区老人福祉施設大会

②栄養士関係 愛媛県 東予地区 新居浜市 各栄養士研修 特定給食施設研修

新居浜市病院栄養士 栄養指導者研修 栄養ケアマネジメント研修

③介護職員関係 認知症 指導者養成研修 介護技術向上研修

④介護支援専門員 愛媛県 新居浜市 県社協主催研修

4. 行事計画(年間)

4月 合同花見 家族会総会	10月 太鼓祭り 社会見学 防火訓練
5月 新緑ドライブ 機関誌発行	11月 文化祭 紅葉見物 焼き芋
6月 運動会 神事 菖蒲見学	12月 忘年会 お餅つき クリスマス 大掃除
7月 そうめん流し ワークキャンプ	1月 お正月 初詣 新年会 機関誌発行
8月 慰霊祭 盆踊り ビアガーデン	2月 節分 バレンタイン
9月 敬老会 観月会 機関誌発行	3月 ひな祭り ホワイトデー 防火訓練
※ 毎月第4金曜日 居酒屋	※各クラブ活動 定期的に実施

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

交流事業 やすらぎの郷文化祭 西の土居花見 各自治会活動・公民館活動
校区運動会・文化祭への参加と協力(久保田・滝宮・金栄・西の土居)
施設見学の受入れ、ふれあいサロンの実施(金栄、西の土居、政枝、
久保田、若水) 校区ソフトボール大会

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動

地域清掃 生き生きフェスティバル 地元自治会活動への協力

②ボランティアの受入

新居浜工業高等学校 新居浜商業高等学校 新居浜南高等学校 天理教
金栄福祉ボランティア団体 金栄婦人会 若く明るく歌を歌う会
語り部演奏 琴演奏 ハープ演奏 少林寺拳法 マンドリン演奏 大正琴演奏
絵手紙教室 習字 フラダンス クラシック演奏 昔話披露 三味線演奏
フォークダンス 口腔ケア衛生管理

(3) 実習生の受入

①学校等

十全看護専門学校 松山東雲短期大学 河原医療福祉専門学校

新居浜南高等学校 四国中央医療福祉総合学院 今治明徳短期大学

愛媛十全医療学院

②体験学習 新居浜市役所 教員免許特例法による介護体験

中高生ワークキャンプ 松山大学

③養成機関 (ヘルパー) シルバー人材センター ビーイング

6. 入所利用者状況 (平成28年3月31日現在)

(1) 年齢

	59以下	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	100以上	合計	平均
男	0	1	0	1	2	9	2	5	1	0	21	83.5
女	0	0	2	5	6	16	33	25	11	1	99	87.1
合計	0	1	2	6	8	25	35	30	12	1	120	86.4

(2) 要介護度

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要介護度平均
男	1	0	5	8	7	3.95
女	3	7	13	32	44	4.08
合計	4	7	18	40	51	4.06

障害者支援施設
あゆみ苑

平成27年度 事業報告

1. 経営方針

平成27年度目標として「職員一人一人の接遇能力と資質の向上」を掲げた。接遇マナーの改善では、職員が毎朝「朝の挨拶運動」に取り組み、正しい言葉遣いと挨拶の励行、身だしなみ等に取り組んだ。また、職員の技術力の向上や資質の向上を図り、介護事故の防止に努めた。ご利用者、ご家族に対する笑顔での接遇応対とコミュニケーションに努め、ご利用者の情報を共有し、ご家族からの要望や苦情等について真摯な対応と説明を行った。

ご利用者の高齢化による入院や介護保険への移行に備え、新規利用者の獲得のため相談支援事業所や各サービス事業所と情報交換等により連携を強化するなどの様々な取り組みを行った。また、特別支援学校との関係強化をはかり積極的な受入を行った。

感染症対策では、一部ご利用者にインフルエンザの感染者が出たものの、職員一丸となつた対応により、感染が拡大することなく、短期間で終息させることができた。

その他、地域との連携による防災対策、利用者・職員の心の健康と安全を守るためのメンタルヘルスケアなど様々な取り組みを推進した。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ① 利用者の自立促進と生活向上のための支援
- ② 接遇マナーの改善と実践
- ③ 地域社会との交流や、繋がりに向けた積極的な関わり
- ④ 職員と利用者の信頼関係の構築
- ⑤ 各関係事業所との連携による最適サービスの提供

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ① 危機管理のための継続的な勉強会の実施
- ② リスクの減少に向けた報告・連絡・相談の徹底
- ③ 職員に対し連携と情報共有の徹底
- ④ 介護技術や職員資質向上のための研修の実施

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ① 稼働率や利用人数の目標数値に向けた取り組み
- ② 適性配置人員の検討や適正な支出への取り組み
- ③ 働きやすい職場環境に向けた取り組み
- ④ 人材の確保と定着

3. 研修計画

(1)施設内（きぼうの苑と合同）

①三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

②自主研修

4月 身体拘束廃止について

10月 介護施設でのリスクマネジメント

5月 感染症予防について

11月 虐待防止について

6月 食中毒について

12月 接遇について

7月 メンタルヘルスについて

1月 ターミナルケアについて

8月 リスクマネジメントについて

2月 プライバシー保護について

9月 認知症ケアへの対応について

3月 褥瘡防止について

(2)施設外

中四国身体障害者療護施設協議会施設長会（研修会）・施設職員研修大会

愛媛県身体障害者療護施設協議会施設長会・施設職員研修会

愛媛県障害者相談支援従事者研修

愛媛県障害程度区分認定調査員研修

通所施設直接処遇職員研修会、サービス管理責任者研修

4. 行事計画（年間）

4月 花見

5月 日帰り旅行 街中ツアーア 愛媛県障害者スポーツ大会

6月 日帰り旅行 紫陽花見学 合同運動会

7月 七夕 花火 ビアガーデン（施設内外） 素麺流し 映画

8月 慰霊祭 盆踊り カラオケ大会 映画

9月 日帰り旅行 観月会

10月 日帰り旅行 地方祭 防火訓練 重信車いすマラソン

11月 文化祭 紅葉狩り 街中ツアーア

12月 クリスマス会 忘年会 餅つき

1月 初詣 書初め 新年会 料理

2月 節分 バレンタイン

3月 ひな祭り 運動会 防火訓練

*定期行事：買い物、外出、買い物訓練、誕生者外食、居酒屋（第4金曜）、陶芸、お茶会
介護教室、フラワーアレンジメント、料理教室

*クラブ活動：習字クラブ（第2・4火曜）、生花クラブ（第3木曜）

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1)地域交流

やすらぎの郷文化祭、施設見学の受け入れ、他施設行事への参加、外出行事による社会参加、来苑ボランティアとの交流、校区芸能発表会、校区運動会、校区文化祭、校区ソフトボール大会、校区ケアネットワーク

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動

地域清掃、地元自治会活動への協力、生き生きフェスティバル

②ボランティアの受け入れ状況

愛媛県立新居浜工業高校、愛媛県立新居浜商業高校、愛媛県立新居浜南高校、天理教、金栄福祉ボランティア団体、金栄婦人会、語り部演奏、琴演奏、ハープ演奏、若く明るく歌を歌う会、少林寺拳法、マンドリン演奏、大正琴演奏、絵手紙教室、習字、フラダンス、クラシック音楽演奏、口腔ケア衛生管理、昔話披露、三味線演奏、フォークダンス披露

(3) 実習生の受け入れ

<学校関係>

今治明徳短期大学、松山東雲短期大学、河原医療福祉専門学校、四国中央医療福祉学院

6. 利用者状況 (平成28年3月31日現在)

(1) 年齢 ()…入所支援

	19以下	20~29	30~39	40~49	50~59	60~65	66以上	合計	平均
男	2 (0)	2 (0)	2 (0)	5 (3)	10 (3)	8 (1)	5 (5)	34 (12)	52.5 (59.5)
女	1 (0)	4 (0)	1 (1)	5 (0)	7 (2)	8 (2)	3 (3)	29 (8)	50.3 (60.8)
合計	3	6	3	10	17	16	8	63	51.5

(2) 障害者程度区分 ()…入所支援

	1	2	3	4	5	6	合計	平均
男	0 (0)	1 (0)	8 (0)	5 (0)	8 (6)	12 (6)	34 (12)	4.6 (5.5)
女	0 (0)	1 (0)	9 (2)	5 (1)	4 (2)	10 (3)	29 (8)	4.4 (4.7)
合計	0	2	17	10	12	22	63	4.5

ケアハウス
夢テラス

平成27年度 事業報告

1. 経営方針

平成27年度は「ご利用者個々のニーズに合わせたサービスの提供により、長く利用していくこと」を目標に掲げたが、退居に伴う5組6名の新規入居者を迎えた。入居者の方々の高齢化が進んでおり、身体面、精神面の状態低下による突然の思わぬ病気の発現やADLの低下等が見受けられるご利用者が増加してきている。個々の状態に合わせた生活の継続ができるよう支援に努め、必要に応じてご家族や関係事業所との連携を図りながら、在宅サービス利用の援助等を行い、長期利用維持に繋げている。

また、新規の入居希望者も住居や生活面、健康面などに不安や問題を抱えているケースが多くなってきていている。

ご利用者が高齢化、虚弱化しても、少しでも長期の生活(利用)ができるよう、施設の環境整備、職員の知識や技術の向上に努めている。

今後も、施設の特徴をつくり、幅広く入居希望者を確保するとともに、入居者の皆様が日々安心して楽しく生活できるよう支援し、安定した施設運営を目指していきたい。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 入居者の高齢化・多様化に合わせた支援の充実

- ① 利用者個々の心身の状態を把握し、健康の維持・増進に努めた。
- ② 関係機関・職種と情報共有に努め、在宅サービスの利用などの調整・援助を行った。
- ③ 行事への参加や外部との交流を通して、入居者の心身の充実を図った。

(2) 利用者が安心安全で快適に過ごせる生活環境の整備と施設づくり

- ① 日頃からの入居者との関わりや茶話会等を通じて、個々のニーズを把握することに努めた。
特に、食事に関しては、関係部署と連携して改善を図り、献立に反映させるよう努めた。
- ② 利用者が現在の生活を維持できるよう、危機管理に努め、リスクの軽減に努めた。
- ③ 既存設備の点検や修繕を随時実施し、入居者がより安心、安全に生活できるよう生活環境の改善等を行った。

(3) 入居者の確保

- ① 新規入居者確保のため、パンフレットやホームページなどを活用して広報活動を行なった。
- ② 施設見学者、実習生、ボランティア等に対し施設の概要をわかりやすく説明・PRし、入居者確保に繋がるよう努めた。
- ③ 他事業所のケアマネ等との情報交換を通じて、入所希望者の募集・確保に努めた。

3. 研修計画

- (1) 施設内…感染予防研修、職員勉強会(毎月)の実施、接遇研修、認知症研修、
食中毒予防、リスクマネジメント、認知症ケア、メンタルヘルスケア他
- (2) 施設外…全軽協四国ブロック研修会他への参加

4. 行事(年間)

① ケアハウス行事

茶話会 誕生会 買物クラブ シャクヤク見物 そうめん流し 花火 敬老会
上部乳児保育園交流会 忘年クリスマス会 新年会 節分・豆まき イチゴ狩り

② やすらぎの郷行事参加

なかよしクラブ 花見 太鼓台見物 運動会 神事 ビアガーデン 慰靈祭・盆踊り
観月会 防災・防火訓練 文化祭

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

・地域公民館行事、上部乳児保育園 各種ボランティア団体交流 地域太鼓台

(2) ボランティア、実習生

・ケアハウスの事業、業務の説明、施設見学等に随時応じ、利用者との交流

6. 入所利用者状況

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

(1) 月別利用者数 (各月 1 日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	11	11	10	10	10	9	9	9	9	10	10	9	117
女	17	17	16	16	16	17	18	17	17	19	19	19	208
合計	28	28	26	26	26	26	27	26	26	29	29	28	325

(2) 月別居室稼働率 (各月 1 日現在)

室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2F(室)	13	13	11	11	11	11	12	12	12	13	13	13	145
3F(室)	13	13	13	13	13	13	13	12	12	13	13	12	153
合計	26	26	24	24	24	24	25	24	24	26	26	25	298
稼働率 (%)	100	100	92.3	92.3	92.3	92.3	96.2	92.3	92.3	100	100	96.2	平均 95.5

(3) 入居者年齢

人 歳

	69歳以下	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上	合計	平均
男	0	0	2	0	5	2	9	86.2
女	0	2	0	10	3	4	19	84.6
合計	0	2	2	10	8	6	28	85.1

(4) 要介護認定状況

人

	非該当	要支援Ⅰ	要支援Ⅱ	要介護1	要介護2	要介護3~5	合計
男	2	0	1	4	1	1	9
女	3	4	5	6	1	0	19
合計	5	4	6	10	2	1	28

障害者支援施設
三恵亦一ム

平成27年度 事業報告

障害者支援施設三恵ホーム

1 経営方針

平成27年度も、利用者一人一人が安心して心豊かな生活が送れるよう、①その尊厳と人間性、自己決定を尊重すること、②利用者の真のニーズに基づく良質なサービスを提供すること、③地域に愛され、地域から信頼される開かれた施設とすることを基本方針として、運営した。

また、平成27年4月から障害福祉サービスの利用を希望する全ての障害者に「サービス利用計画」の作成が義務付けられたため、平成26年10月に設立した「指定特定相談支援事業所」を運営し、当ホーム入所利用者はもとより在宅障害者を対象に「サービス利用計画」の作成を支援した。

次の重点課題への取組み結果は、次の通りとなった。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 組織運営

ア 3部門制への移行

事業部門を管理部門と支援部門とに分離し、総務部門と合わせて3部門の体制にした結果、3人の部門長により、指導がきめ細く行き届き、問題に早期に対処できるようになった。

これにより、職員と利用者との間のトラブルは減少方向にあり、苦情申立に至る事案はなかった。また、職員と職員との間の問題も減少方向にあり、中途退職者数は減少した。

イ 設備・備品の整備

入所者の高齢化や障害の重度化が進み、職員の生活支援に係る負担が増大している。このため、職員の身体的な負担を軽減するとともに、利用者へのサービスを向上させるため、走行リフターを購入した。また、駐車場に夜間の照明設備を設置する等、施設の機能性や利便性の向上を図った。

(2) 業務運営

三恵会の運営理念の一つである利用者本位の「誠実な福祉」が実践されるよう、人材育成委員会により年間を通じた、計画的な研修を実施し、職員の人格、識見の向上に努めた。特に、虐待防止研修では「アンガーマネジメント」をテーマに取り上げ、怒りの感情をコントロールし、利用者に対して適切な対応ができる能力を習得させた。

(3) 利用者の思いを尊重した支援

利用者様と関わる時間を多く持ち、利用者様個々の考え方や思いに耳を傾けるよう努めました。利用者様の今一番のご希望・願いを実現するために個別支援計画に沿った支援に努め、利用者様の満足に繋げた。

① 利用者個々の生活スタイルに合わせた支援の実現

- ・利用者様一人一人に主眼を置き、個々の生活スタイルに合わせた日常的な支援が行えるよう、職員が密な関係を保ち、ご本人の意向を大切にした支援に努めた。

② 利用者の今一番の希望・願いを実現するための個別支援計画の作成・実施

- ・日中活動では、要望の多いカラオケや映画鑑賞の回数を増やして楽しんでいただいた。また、残存機能を活用したダンスでは、野外イベントに参加した。これらにより、モチベーションの向上と QOL の向上に資することができた。

③ 利用者がより楽しく、充実した生活を送るための日中活動への積極的支援

- ・利用者は間に合わせて様々な活動の場を提供し、より楽しくより充実した生活が送れるよう有意義な日中活動を目指した。外部ボランティアの慰問や利用者様のご家族による活動、講評を得ているカラオケや憩い喫茶等、利用者様ご自身が参加を選び、楽しんでいただいた。
- ・個別外出では年3回、利用者様お一人おひとりのご希望に応じた情報提供を行い、自由に楽しみ、満足していただけるよう個別支援に努めた。

(4) 利用者が安心して過ごすことのできる施設づくり

正しい知識と技術を学び、利用者様には安全で安心かつ、心豊かな生活を過ごしていただけよう上質なサービスの提供に努めた。

① 利用者の個々のニーズの実現を目指した個別ケアの充実

- ・個別支援計画について、毎月評価を実施して、サービスの向上に努めた。
- ・制度の内容や変更、施設での対応方法、書類の変更箇所等、利用者様とご家族へその都度、文書や掲示、電話、口頭、ご家族面会時、各会等で説明を行い情報の提供を行った。

② 利用者が明るく、元気に、笑顔で暮らせる環境づくり

- ・利用者様一人一人に主眼を置き、個々の生活スタイルに合わせた日常的な支援が行えるように努めた。

③ 利用者の口腔衛生を目的とした歯科・口腔健康検診の実施

- ・利用者の口腔衛生を目的とした愛媛歯科口腔保険センターの歯科医師による歯科検診を実施した。また、口腔ケアや歯の治療の必要な方には、2次検診を実施した。

④ 衛生管理の情報提供と意識付けの強化

- ・労働安全衛生法の規定に基づき、職員の健康管理を行い、また衛生的な業務環境にするため、衛生管理委員会から情報発信を行った。

⑤ 感染症予防対策の強化

- ・感染予防の為、インフルエンザワクチン接種を11月・12月に実施した。
- ・施設内感染情報は、レポートに取りまとめ施設内に周知するとともに、委員会で効果的な予防が行われるよう、常に状況分析を行い、対策を立てるよう努めた。

⑥ 危機管理意識、リスクマネジメントの徹底

- ・常に危機意識を持ち、予測される事故を未然に防ぐ為のリスクマネジメントに努めた。
- ・事故やヒヤリハットは、直ちにご家族へ報告し、対策もご報告して、事故の再発防止に努めた。また、面会時には、利用者の近況をお伝えし、ご家族との信頼関係の構築に努めた。

⑦ 利用者のリハビリテーション実施計画書の定期的な見直し

- ・3ヶ月毎、場合によっては随時見直しを行った。

⑧ 個別リハビリへの声掛け、誘導の支援

- ・声かけと誘導を随時行うことができた。

⑨ パソコン利用環境の整備(訓練室と利用者様の居室)

- ・訓練室用パソコンや利用者パソコンの整備を随時行った。

⑩ 栄養マネジメントを活かし、安全で美味しく楽しく安心な食事の提供

- ・嗜好調査の結果や給食委員会での利用者の意見を取り入れ、栄養マネジメントを活かした食事を提供した。また、利用者個々の栄養摂取量や食形態に合わせた食事を提供し、栄養状態の悪化や疾病の重症化の防止、健康の維持に努めた。

(5) 介護サービスの質の向上

職員研修や施設内外部の研修への積極的な参加で資質の向上を図り、利用者様に上質なサービスの提供に努めた。また、資格取得にもチャレンジした。

① 介護職員等によるたん吸引等の養成研修への参加

- ・養成研修への参加により喀痰吸引を行える生活支援員1名を新たに確保できた。

② 資格取得への挑戦

- ・介護福祉士や社会福祉士の資格取得の為、受験資格が得られた職員が挑戦した結果、介護福祉士2名、社会福祉士2名の職員が合格した。

③ 各種研修会への積極的参加、専門的な知識と技術の向上

- ・施設内研修では、人材育成委員会による毎月の研修で、主にグループワークを取り、積極的な意見を出し合い、職員一人ひとりのスキルアップを図りました。また外部研修に参加することで他施設との情報交換を行い、上質サービスの提供に繋げる努力をした。

- ・介護技術の実技研修を新人職員に行い、介護技術の向上に努めた。

- ④ 各班(部署)間の連携の強化
 - ・各種会議や申送りにて情報交換や情報の共有を図り、各部署間の連携を密にした。
 - ⑤ 関係機関・各種団体・施設間とのネットワークの充実
 - ・各行事の実施にあたり、ボランティアの依頼や関係団体等と連携を密にして、円滑に行事を実施するよう努めた。
 - ・利用者の入退所や新規の利用希望について関係機関と連絡をとり、適切な対処方法についての協議、受入の日程調整等を行った。
 - ⑥ 研究結果を法人の研究発表会で発表した。
 - ・ 平成28年2月27日
 - ・ テーマ「音楽で笑顔に、音楽で元気に～音楽療法の可能性を考察する～」
- (6) 地域に愛され、信頼される開かれた施設
- ① 短期入所及び日中一時支援事業の積極的な受入れ
 - ・ 短期入所利用実績 112件 615日間の受入れ
 - ・ 日中一時支援利用実績 176日間の受入れ
 - ・ 短期入所・日中一時支援の稼働率の向上
53.8% (26年度 44.3%)
 - ② 利用者のご家族や地域の方々への日中活動の協力の呼びかけ
 - ・ 施設内外で地域の皆様と交流ができるよう、地域交流委員を中心に地域交流行事（ふじ祭り、盆踊り）の企画を行い、地域との繋がりの強化に取り組んだ。
 - ③ 地域行事への積極的な参加
 - ・ 社会福祉協議会等が実施する地域行事へも積極的に参加し、地域の方との交流を積極的に行つた
 - ・ 地区の春の井出清掃と秋の道づくりに参加
 - ④ ボランティアの積極的受入れ
 - ・ ふじ祭りや盆踊りの時には、実習受入校や各種団体にボランティアの依頼を行い、協力をしていただいた。
 - ・ ボランティアの団体や個人の増加と活動の継続を目指して、ポスターを作成し、地域の方への呼びかけを行つた。
 - ・ 施設のステージ、ホール、グラウンド等を活用して、地域の皆様との交流活動を展開した。

3 研修計画

(1) 施設内

① 年間研修計画（毎月1回）に基づく実施

年間計画に基づき、11回実施した。延べ335人が参加した。

(2) 施設外

- ① 全国身障協職員研究大会
- ② 中四国施設長研修会、事務管理研修会、支援職員研修大会、職員研修大会
- ③ 県内職員研修会、サービス管理責任者研修会、職員研修大会
- ④ 職種別専門研修会
- ⑤ 三恵会本部主催の職員研修

4 行事予定

- ① 4月 お花見、地域交流三恵ふじ祭り
- ② 5月 愛媛県障害者スポーツ大会
- ③ 7・11月 防災訓練（地震、土砂災害想定、火災夜間想定等）
- ④ 8月 地域交流三恵盆踊り大会
- ⑤ 10月 車椅子マラソン
- ⑥ 12月 餅つき大会、クリスマス会
- ⑦ 1月 新春ゲーム大会
- ⑧ 2月 節分豆まき、カラオケ大会
- ⑨ 4月～12月 個別外出

5 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- ① 地域交流ふじ祭り 350名
- ② 地域交流三恵盆踊り大会(愛媛県との共催) 500名
- ③ 東温市身障協助会との交流 7名
- ④ 川内保育園との交流 38名

(2) ボランティア活動

- ① 職員ボランティア活動
 - ・地区の春の井出清掃と秋の道づくり
 - ・国道11号歩道の生垣の清掃 隔月1回 6回

② ボランティアの受入れ

- ・川内町ともしひ会（38名）・創価ボランティア（76名）
- ・川内町婦人会（10名）・伊予銀行（9名）・傾聴ボランティア（36名）
- ・河原医療福祉専門学校（2名）・HATACHIの会（46名）
- ・松山東雲短期大学（1名）・松山城南高校 福祉科（2名）
- ・愛媛十全医疗学院（19名）・愛媛調理製菓専門学校（13名）

(3) 実習生の受入れ

- ・河原医療福祉専門学校・松山東雲短期大学
- ・聖カタリナ大学
- ・松山城南高校(福祉科)
- ・愛媛大学

昨年度は、職員と利用者との関係、職員と職員との関係で様々な問題が発生し、職員の中途退職者が相次いだ

デイサービスセンター
えぐも

平成27年度 事業報告

通所介護事業所えぐも

1 経営方針

(1) 通所介護事業及び介護予防通所介護事業

えぐもが立地する東温市の東南部の高齢者人口の減少、えぐもの施設の老朽化、サービスの競合する施設の増加などにより近年利用者が減少傾向にあり、加えて、平成27年度の報酬改定により、要介護区分の報酬が約5%、要支援区分報酬が21%と大幅に減額された。

こうした厳しい経営環境の中、「えぐもの将来像検討班会議」を開催し、利用者のニーズを把握するためのアンケート調査の結果等に基づいて、サービスの内容を見直し、利用者のニーズにより適合した魅力のあるものを提供することで、利用者の満足度を高め、利用者に定着していただけるよう努めた。

しかし、これまで利用されていた方の中で、入所型施設への入所、死亡、入院等の理由によって12人が利用を中止され、新規利用契約者数5人を上回ったため、全体として利用者数が減少した。

軽費の節約にも出来る限りの努力をしたが、上記の要因から、平成27年度はマイナスの収支決算となった。

(2) 居宅介護支援事業

居宅介護支援事業は、収入は全体の10数%であるが、信頼されるサービスを提供し、新規利用者の確保、更には通所介護事業の利用者の確保に結び付けていくべくきめ細かな支援に努めた。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) サービス内容の見直し

- ・ 口腔体操を導入した。
- ・ 利用者の機能維持に向け従来実施してきた「お富さん体操」に加え、「テレビ体操」を導入した。
- ・ 平行棒を活用した歩行訓練を実施した。
- ・ 送迎ルートを見直し、時間を短縮した。

(2) 情報収集と連携強化

- ・ 研修会・連絡会等に積極的に参加し、情報収集や知識の向上に努めた。
- ・ 関係機関等へは積極的に出向き、連携強化や新規利用者情報の紹介に努めた。

(3) 職員の資質の向上

- ・ 従来実施している「サービス担当者会議」の場で、合わせて、「えぐもの将来像検討班会議」を開催し、経営感覚を磨くとともに、サービスの質の向上に取り組む意識を涵養した。

- 3 研修計画
- (1) 施設内
- ・ 併設施設三恵ホーム内研修会 10回
- (2) 施設外
- ・ 中四国地区老施協職員研修会 1回
 - ・ 中予地区老施協研修会 2回
 - ・ 県老施協研修会 2回
 - ・ デイサービス研究大会 1回
 - ・ 介護支援専門員実務研修会 1回
 - ・ 東温市介護支援専門員勉強会 12回
 - ・ 法人本部リーダーシップ研修 3回
- 4 行事計画
- ・ 社会見学 年 6回
 - ・ 敬老演芸会 9月
 - ・ クリスマス会 12月
 - ・ 誕生会 年 12回
 - ・ 防災訓練 年 2回
 - ・ 地域交流ふじ祭り 4月
- 5 実習生等の受入れ
- ・ サマー・ウインターボランティアの受入れ 1人
 - ・ 川内中学校生徒の交流訪問の受入れ 20人

兒童福祉施設
十全保育園

平成27年度事業報告

1. 経営方針

平成27年度は、子ども・子育て支援法が施行されて一年目の年でしたが、経理面では、運営費の算出方法が変わったことで、収入面にどう影響してくるのか、どのような計画や報告が必要なのか、見通しが立てにくいままで進められた一年でした。

保育においては、今までの保育を継続しつつも、「保育園で発達を促し支援していくこと」「保護者が責任を持って、家庭で育むべきもの」を明確にし、本来の子育てのあり方を保護者に説明していく中で、保育の専門性を重視してきました。障がい児保育においては、担当しているクラスだけでなく、園全体の問題、職員全体の問題として、考えていくようにしました。新たに一人の障がい児を受け入れることで、どのような保育が求められるか、保護者支援はどうあるべきか、改めて考えさせられました。クラスを越え保育園全体で検討し、問題意識を持って保育に取り組めたと思います。

保護者の価値観の変化や保護者の養育力低下に伴い、子どもの育ちが大きく変わり、今後、保育園はさらに求められる存在になってきています。保育園との関わりがないと健常な子育てが成立しないような状況にもなりつつあります。今後も保育園の役割をしっかりと認識し、保育を進めていきたいと思います。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

① 子どもの健康・安全な生活を保障する。

- ・月1回の職員会で、子どもの状況、けがの報告を話し合い、周知徹底を図りました。大きなけがは、ありませんでしたが、ヒヤリハットをもっと活かし、けがの予防につなげることが課題となっています。

② 子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・各年齢の発達に合った保育については、討議の中で専門性を高めています。特に障がい児保育に取り組むことで、家庭の状況を踏まえて考え、保護者支援において行政と連携を図ることもできました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

① 職員の資質向上

- ・三恵会の発表では「人との関わり」をテーマとし発表しました。交流していくことのねらいを再確認することができました。

② 職員の業務内容について

- ・それぞれの職種において、行事等で責任と当事者意識を重視し、業務を進めています。しかし、まだまだ日々の業務に追われ、専門性を發揮す

るという点が、課題となっています。

栄養士は、食育活動での保育士と連携がさらに求められます。

(3) 「堅実な経営」の実践

- ・消耗品・保育材料等の節約、使用の見直しを図り、削減を進めてきました。
- 備品を大切にする意識も少しづつ高まり、積立にもつながりました。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・職員会（月1回）
- ・先任者会・主任会（随時）

(2) 施設外

- ・保育協議会部会（園長・主任・幼児・乳児・障がい児・給食）
- ・日本保育協会主催研修
- ・人権教育研修
- ・給食担当者会議
- ・三恵会主催研修
- 等

4. 行事実績(年間)

- 4月 入園式・健康診断・ぎょう虫検査
- 5月 親子遠足・野菜苗植え・種まき・家庭訪問・歯科検診
- 6月 保育参観・育児講座『育児とストレスについて』・夕涼み会
- 7月 七夕会・プール開き
- 8月 プール大会・ライン引き・デイサービス交流
- 9月 敬老の日・ちなんでの葉書投函
- 10月 運動会・お祭り集会
のま馬ハイランド遠足(年長児)・交通安全教室
- 11月 七五三・職場訪問(警察署、西原郵便局)
火遊び防止教室・シルエット劇場観劇
プーク人形劇観劇・歯科検診・健康診断
- 12月 保育参観・もちつき・クリスマス会
クリスマスコンサート参加(十全総合病院)
- 1月 記念撮影・新居浜ネットワーク撮影
- 2月 節分・生活発表会（たのしいあつまり）・年長児お茶会
- 3月 交通安全教室・乳児遠足・お別れ遠足・お別れ会・卒園式
(毎月実施)身体測定・避難訓練 (随時)なかよしの日《異年齢交流》

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流状況

- ・お誕生会
- ・夕涼み会
- ・デイサービス交流
- ・運動会
- ・「たのしいあつまり」(生活発表会) 等

(2) ボランティア状況

《夕涼み会》

- ・十全看護専門学校 計 16名

(3) 実習生受け入れ状況

・十全看護専門学校	(小児看護学)	34名
・今治明徳短期大学	(保育実習)	1名
・松山東雲短期大学	(保育実習)	2名
・新居浜西高等学校	(体験学習)	26名
・新居浜西中学校	(職場体験)	4名
・新居浜北中学校	(職場体験)	4名
・新居浜南中学校	(職場体験)	4名
・新居浜北中学校	(進路学習講座)	16名
・宮西小学校	(町探検)	5名
計 96名		

特別養護老人ホーム
ハートランド三恵

平成27年度事業報告（案）（ハートランド三恵）

1. 事業報告

平成27年度は、介護保険・介護報酬の改定が行われた影響により、介護保険事業収入が、対前年度比で、約900万円、約1.9%の減収となりました。この介護報酬の改定は、「地域包括ケアシステム」の構築を実現していくために、中重度の要介護者や認知症高齢者への対応強化、介護人材確保対策の推進、サービス評価の適正化と効率的なサービス提供体制の構築という基本的な考え方に基づき、①介護事業者の収支状況の反映分、▲4.48%、②介護サービスの充実分、+0.56%、③介護職員処遇改善加算の拡充分、+1.65%とし、全体で▲2.27%の改定となったものであり、ハートランド三恵も、この介護報酬改定の影響を受けた形になりました。

ハートランド三恵では、将来、中重度の要介護者や認知症高齢者になったとしても「住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるようにする」という地域包括ケアシステムの実現をめざし、中萩地域住民を対象とした介護教室を2度にわたり開催いたしました。また、「心身機能」「活動」「参加」に焦点を当てたリハビリテーションの提供や日中オムツゼロ・常食化への取り組みなどの介護力向上に全職種が連携して取り組みました。入所者の健康管理につきましては、認知症ケア、感染症対策、褥瘡予防、ノロウイルス対策、口腔ケア等の継続学習と実践に取り組みました。特に、5月に発生した疥癬患者への対応と処置では、職員間で対応についての周知徹底を図り、収束することが出来ました。なお、疥癬の影響により、予定していた夏祭りやワーキングキャンプは、中止いたしました。

通所介護事業所では、1日平均18.32人（稼働率73.3%）と対前年比0.6人増（稼働率2.4%の増）となりました。今後とも、地域の皆さんに愛されるデイサービスにしてまいります。

居宅介護支援事業所では、地域の方に認知症を理解していただくために、介護教室等で認知症の症状や対応方法について説明するなど地域との協力・連携を図るとともに、医療機関との連携強化に努めてまいりました。今後も引き続き、ご利用者が安心、安全に在宅生活が送れるよう支援してまいります。

2. 重点課題、具体的な取り組み事項

（1）利用者の尊厳と自立を守るサービスの提供（誠実な福祉）

- ①個別ケア、自立支援の充実
- ②日中オムツゼロ、常食化への取組みの継続
- ③認知症ケア、看取り、口腔ケアの継続学習と実践
- ④接遇の向上（心に届いていますか貴方の言葉！言葉美人運動の継続）

（2）人材育成・職員の資質向上（確実な知識と技術）

- ①科学的介護の実践

- ②自己学習、自己啓発への援助
 - ③分析力、行動力、責任感の持てる職員の意識醸成
 - ④各部署、1年毎の研究テーマに取り組む
- (3) ニーズに応えるサービス提供と事故防止活動の向上（堅実な経営）
- ①在宅部門の稼働率アップと利用登録者数増への取り組み
 - ②入所者の入院回数・期間の減少への取組
 - ③リスクの原因追究・改善への手順を通じて、危機管理の強化を図る
 - ④正確な情報収集・共有及び必要な対策の検討
 - ⑤ニーズへの対応と地域との連携強化

3. 研修実施状況

(1) 施設内研修

- ①全職員対象
 - ・研修報告及び伝達講習（12回）・テーマ別研修（10回）
 - ・講演形式の研修（2回）・各種指針に基づいた研修（6回）
- ②部署毎
 - ・実習生の受け入れ、業務の見直しと勉強会の実施
 - ・月1回部署毎に会を持ち、改善や展望について意見交換
 - ・2か月に1回ユニット毎に会を持ち、処遇の統一等の意見交換

(2) 施設外研修

- ・愛媛県老人福祉施設協議会、東予老人福祉施設協議会主催の研修会
- ・四国地区老人福祉施設関係研究大会
- ・四国ブロックカントリーミーティング
- ・四国老人福祉施設協議会セミナー
- ・愛媛県栄養士会、新居浜市栄養士会主催の研修
- ・介護支援専門員の各種研修
- ・愛媛県、愛媛県西条地方局、新居浜市主催の各種研修会
- ・介護職員技術向上講習会・介護技術講習指導者養成講習会
- ・愛媛県社会福祉協議会、新居浜市社会福祉協議会主催の各種研修会
- ・ユニットリーダー研修

4. 年間行事

(1) 毎月の共通行事

- ・神事・誕生会・趣味活動・音の広場・カラオケ大会・外出（各種花見、外食等）
- ・手づくりおやつ・なかよし喫茶（毎週1回）・お参りツアーサイドシアター
- ・絵手紙教室・習字で遊ぼう・合同レクリエーション・健康体操
- ・カレンダーづくり・握り寿司の日（11月～4月）

(2) 月別行事

4月	・花見	5月	・園庭での昼食（バーベキュー）・外出
6月	・お参りツアーやおやつ作り・園庭での弁当給食・園児との交流	7月	・七夕祭・園児との交流
8月		9月	・敬老会・観月会・個別外出
10月	・太鼓台・個別外出・ミニ運動会	11月	・紅葉見物
12月	・忘年会・クリスマス会・しめ縄作り ・餅つき・園児との交流	1月	・初釜・新年会・七草粥・鏡開き・外出
2月	・節分・バレンタインデー・ふれあい訪問	3月	・ひな祭り・外出

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- ・地区太鼓台訪問（春、秋）・敬老会・萩生保育園（七夕訪問）
- ・クリスマス訪問・やすらぎの郷文化祭・作品展（伊予銀行）
- ・公民館活動への協力と交流・外出行事による社会活動・地域での介護教室

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動

- ・地域清掃（年2回）

②ボランティア受入状況

- ・ハートランド三恵と手をつなぐ会（随時）・音の広場（毎週金・土曜日）
- ・コーラスグループ・楽器演奏グループ
- ・傾聴ボランティア「クローバー」・なかよし喫茶・萩生保育園
- ・聖マリア幼稚園・中萩小学校・中萩中学校・大生院中学校
- ・新居浜南高校・写真（誕生日者の笑顔を撮影）・習字で遊ぼう（月2回）
- ・絵手紙教室（月2回）

(3) 実習生の受入状況

- ・新居浜南高校・四国中央医療福祉総合学院・シルバー人材センター
- ・十全看護学校・仏教大学・今治明徳短期大学（栄養士）

老人保健施設
リハビリステーション三恵荘

平成27年度 事業報告

1. 経営方針

5月中旬に64名と、開設以来の落ち込みを受け、稼働率90%を超えるまでは、在宅復帰率よりベッド稼働率を優先させるべく、8月より経営方針の変更を行った。5日に1人のペースで新規入所を行った結果、9月中旬には86名まで回復したが、4~7月の4ヶ月間の低迷の影響が大きく、年間稼働率は80%を切った。

目標値には到達できなかつたが、堅実な施設運営のため、次年度以降も稼働率とともに在宅復帰についても貪欲に追求してゆく。

また、前年に引き続き「人材育成」に邁進した。職員の資質向上による現場力の強化を図るため、各種研修会への意欲的な参加や、各資格取得の実現に努めた。取得結果は後記のとおり。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 誠実な福祉

1. 市内の居宅介護支援事業所への挨拶廻り
 - ①施設PR用DVDを持参
2. 認知症ケアの充実
 - ①くもん学習療法の取り組みの継続
3. 防災対策の充実
 - ①防災訓練実施
 - ②災害時の備品整備（ガス式自家発電機、簡易トイレ等）

(2) 確実な知識と技術

1. キャリア段位制度の導入
 - ①施設内2例目のレベル認定評価の実施
2. 第6回オールジャパンケアコンテストへ参加
3. 各種研修会への積極的な参加
 - ①全国老人保健施設協議会主催の研修会へ参加
4. 資格取得の奨励及び支援
 - ①介護福祉士 2名
 - ②介護支援専門員 1名

(3) 確実な経営

1. 入所部門の稼働率アップについては、目標値90%には未達成
2. 各種加算の取得等については、検討見直し後に対応

3. 研修等実績

(1) 施設内

在宅復帰におけるケアマネの立ち位置をテーマに、三恵荘主催の合同研修会
法人による新人研修、階層別研修、研究発表会 定期的な自主研修（分担）

(2) 施設外

全老健協主催（基礎、中堅、実地研修、全国大会）

県老健協主催（看護、介護、リハ、通所、相談、事務、ケアマネ、県大会）

県社協主催（新任職員、介護技術向上、ケアマネ） 日本通所ケア大会

虐待防止 認知症ケア 看取り

(3) 取得資格等

介護福祉士 介護支援専門員 介護実習指導者

4. 行事実績（年間）

【入所】

【通所】

4月	花見（ミニドライブ）	
5月	外出（ミニドライブ）、外食	おやつ作り、手工芸
6月	菖蒲見物、ショッピング	ペタング大会
7月	七夕、ビアホール、ワークキャンプ	七夕、熱中症について、映画の日
8月		おやつ作り、リハビリ体操
9月	敬老会、観月会	敬老週間、おやつ作り
10月	秋季大運動会	運動会
11月	ショッピング	おやつ作り、紙芝居、音楽会
12月	忘年会、クリスマス、餅つき	ゆず湯、手工芸、クリスマス、忘年会、餅つき
1月	書初め	新年会
2月	節分（豆まき）	節分、おやつ作り
3月	ひな祭り	ひな祭り、おやつ作り

*神事、茶話会は毎月。誕生会は偶数月。 *機関紙は年4回発行

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

太鼓台訪問、大生院・中萩校区文化祭

(2) ボランティア受け入れ

音楽療法（週1回）、地域有志の歌レク（週1回）、大正琴、民謡等

(3) 実習生の受入

新居浜南高等学校

老人保健施設
希 望 の 館

平成27年度事業報告

1. 経営方針

入所部門に於ける今年度最も大きな業績は『在宅復帰率30%↑』の達成である。7月に達成⇒8月からは「在宅復帰在宅療養支援加算」対象施設の仲間入りを果たすことが出来た。また、昨年1月のインフルエンザによる影響を心配した稼働率についても、10月末時点で平均87.2%と低迷するも3月末には（奇跡的に）年間平均90.6%まで回復することが出来た。今後はこの在宅復帰率と稼働率を如何にバランス良く（高く）維持できるかが大きな課題となる。

通所リハ部門では、稼働率が66.7⇒73.4%（平均2名増）へアップした。また、リハ部門との共同で取組んだ「コーディネーショントレーニング」を駆使した『生活行為向上リハビリ』の実践は、数少ない取組み事例として全国大会で報告し大きな関心を集めた。今後も希望の館に於ける在宅復帰支援事業の柱として、また今後も引き続き厳しい状況が予想される入所部門をカバーし得る唯一の事業として、大きな役割を果たすことを期待したい。

居宅部門については、今年度当初98件/月⇒年度末月129件/月まで契約件数が増加した。このことが、今年度の入所及び通所リハの在宅復帰率や稼働率に貢献したことは事実である。

これは施設の狙いであった『居宅の契約数を増やすこと=施設の「安定経営」に繋がる。』を証明しており、今後もこれまで以上に有効な供給源としての役割を期待したい。

お蔭様で、昨年12月補正予算時点で予想した赤字は解消し、黒字化を果たすことが出来た。このことは、職員一人ひとりが自分の職場の経営に携わっていることを実感する「貴重な経験」になったと同時に、それぞれの「自信」に繋がったものと確信している。

特に冬場の厳しい期間中も、幹部職員を中心に皆が目標達成に向け粘り強く頑張ってくれたことが、経営改善（黒字化）に繋がった大きな要因であることは事実である。この頃のやり取りの中で「在宅復帰率」や「入院者数」の推移に関する情報交換が頻繁に行われ、職員同士が具体的対応策をめぐって議論する姿はとても頼もしく、また誇らしくも感じた。何れにしろ、この1年間の全てのスタッフの努力に心から感謝と敬意を表したい。

今年度確信したことは、目標達成には一人ひとりが施設の一員として自覚と責任感を持ち、自らが考え行動することの大切さを繰り返し伝えることが必要であるということであった。

今後も今の流れを大切にしながら、更なる進化のために職員一丸となって努力したい。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践（利用者のQOLの向上）

- ①「職員の説明力アップ」（人間関係作り）・・・在宅復帰支援にも大いに役立った
- ②「事故発生時の迅速且つ誠実な対応」・・・事故は発生しても⇒トラブルはゼロ

(2) 「確実な知識と技術」の習得（職員の資質向上）

- ①「感染症から利用者を守る」・・・特に年末年始のインフル対策に努めた
- ②「脱水予防・口腔ケアの充実」・・・必要な水分摂取のための予算確保（54円/日）

(3) 「堅実な経営」の維持（収益アップと経費削減）

- ①「在宅復帰率30%↑」・・・目標達成！（職員の頑張りに感謝）
- ②「収益アップへの努力」・・・在宅復帰在宅療養支援加算算定スタート！

3. 研修計画

(1) 施設内

新人研修 感染予防勉強会 認知症に関する勉強会 褥創予防に関する勉強会
事故対策に関する勉強会 虐待・身体拘束のための勉強会 救急法 接遇研修
メンタルヘルス研修 看取りケア研修 排泄ケア研修 水分補給の勉強会等

(2) 施設外

三恵会の研修 介護支援専門員更新研修 介護支援専門員現任研修
老健中四国大会 ターミナルケア研修 口腔ケア嚥下障害
その他、虐待・身体拘束、認知症、事故防止、褥創、感染等に関する研修等

4. 行事計画（年間）

- 4月 やかた祭り
- 5月 アニマルセラピー
- 6月 風船バレー大会
- 7月 七夕会
- 8月 ビアホール・夏祭り喫茶
- 9月 敬老会
- 10月 運動会、地方祭
- 11月 文化祭（東温市）
- 12月 クリスマス・忘年会、お餅つき
- 1月 新年会
- 2月 節分
- 3月 ひな祭り喫茶

5. ボランティア・実習生

(1) ボランティア受入状況

趣味クラブ（月2回）、オカリナ演奏（月1回）、読み語りボランティア（月1回）
ショッピング（月1回）、ともしび会（月1回）、民謡教室（月1回）
書道教室（月1回）華道教室（月1回）
サマーボランティア（年1回）、ウインターボランティア（年1回）、
傾聴ボランティア（月1回）

(2) 実習生の受入状況

学校等：十全医療学院 河原医療福祉専門学校 愛媛大学医学部

広島医療保健専門学校

介護初任者研修：ケアジャパン 愛媛県社協

看護：河原医療大学校

通所介護事業所
おいでんや

平成27年度 事業報告

通所介護事業所 おいでんや

1. 経営方針

介護報酬の大幅削減の改正がされ、併せて要支援利用者の利用回数の適正化などにより、どうなる事かとハラハラしてのスタートでしたが、計画に挙げていた ①時代の変化に対応して～ ②要望や苦情に適切に対応～ ③生き生きと働ける環境～

の方向性を、ひとり一人の職員が念頭に置いて意識して取り組んだ結果、中重度ケア体制加算の算定も可能になり、心配していたほど介護報酬のマイナスにはならなかつた。

年間の利用登録者数も19名増えた半面、13名の利用中止者があり大幅増にはなりませんでしたが、元々の利用者が利用回数を増やしてくださいなど、ご家族さん、ケアマネさん、みなさんにおいでんやをより一層認めていただいた一年でした。

2. 重点課題と取り組み

1) 稼働率の向上

①目標としては1日平均18.5名でしたが、結果は17.9名でした。
しかし、昨年、一昨年よりは確実に向上了っています。

②給食検討委員会を立ち上げ、利用者の声・要望を直接伝え、業者側とも歩み寄り、少しづつではありますが、利用者の満足度も向上したように思います。

2) 職員の資質向上

①チェックシートにて自らのサービスを振り返りました。
②「認知症加算」の対象になる研修には参加できませんでしたが、各職員が平均的に研修に出向き、機能訓練・リスクマネジメント・認知症の理解などについての知識を深めてまいりました。

3) 独創性を加味したサービスの展開

利用者もマンネリのサービスでは満足されず、日々目新しい事を求められています。中でも、春と秋に実施する個別外出（利用者1～2名+職員1名で軽自動車でのお出かけ）を楽しみにされている利用者が多く、これまでショッピングや食事という希望が多かつた中で、今年度は「石鎚神社・前神寺にお参りに行きたい！」と真のニーズを

聞き出すことができ、意味のある個別外出が実施できたと喜んでいます。

また、伊予三島までバラを見に行ったり、目新しい外出先を開拓した一年でもありました。

4) 地域交流・ボランティア

人の輪が繋がり、新しいボランティアさん（音楽関係2件、販売系、1Fにこちゃんパークに来られる木の玉プールさんなど）にも多数関わっていただきました。

5) 記録の充実

遅ればせながら、介護計画書などの書類をOA化に移行できつつあります。これからも幅を広げていきたいです。

3. 研修計画

1) 施設内研修

可能な限り多くの職員が全体会に出席し、資質向上に向けて学習しました。

2) 施設外研修

先にも述べましたが、各職員が平均的に県単位の研修に出向いたり、夕方～夜の時間帯に開催される市単位の各種セミナーに出向き、得た知識を現場に持ち帰り、広める活動を行いました。

4. 年間行事計画

- ・毎月の行事（外食・おやつ作り・音楽療法（ピアノ演奏）・ともだちパークと交流・買い物）については実施できました。
- ・インフルエンザの影響があり、2月の館長杯カラオケ大会は日程を変更して実施し、
梅見物については中止になりました。

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・個別外出	・芍薬見物 ・個別外出	・菖蒲見物	・夏まつり（合） ・七夕まつり ・社会見学
8月	9月	10月	11月
・社会見学	・個別外出 ・防火訓練	・いきいきフェスティバル ・太鼓台見物	・校区文化祭 ・紅葉見物

		・個別外出	
12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・もちつき (合) ・クリスマス会 ・忘年会 	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣 ・書初め ・初釜 	<ul style="list-style-type: none"> ・カラオケ大会(合) ・節分 ・梅見物 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひな祭り ・防火訓練

多機能型事業所
わくわくクラブ

平成27年度 事業報告（案）

多機能型事業所わくわくクラブ

1. 経営方針

多機能型事業所わくわくクラブは、生活介護(定員 21人)・生活訓練(定員 6人)・放課後等デイサービス(定員 10人)の3事業における多機能型事業所として3年目を迎えました。しかし、平成27年度途中で生活訓練事業利用者一人が生活介護に移り生活訓練事業利用者が居なくなりました。そのような状況の中、事業体制の見直しを行い、生活訓練事業の廃止及び生活介護事業の定員増員の方針を決定しました。また、放課後等デイサービスは利用児童・保護者のニーズの多様化の中、保護者や関係機関に信頼される事業所として模索・実践を重ねてまいりました。

さらに、障害者総合支援法・改正児童福祉法を踏まえ、わくわくクラブが障がいのある方にとつて、安心して、活き活きと充実した地域生活が送れるよう、さらに社会参加が実現できるよう、各事業においてニーズに沿った具体的な支援を実践してまいりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 利用者受け入れ

生活介護は、特別支援学校高等部卒業生3人の安定的な受け入れをはじめ、相談支援事業所よりの紹介者が利用に結び付く様に努めてまいりました。さらには、生活介護・生活訓練事業の利用者様が休むことなく安心して毎日来所されるよう、お一人おひとりのニーズを見極めて支援してまいりました。

放課後等デイサービスにおきましては、利用児童のニーズの把握や支援方法の模索の中、職員教育に課題が多い年でした。その点につきましては、内部研修や外部研修の積み重ねによって保護者や市委託相談支援事業所からの信頼を得て、年度途中の新規利用希望者の受け入れや、近隣小学校や特別支援学校小学部新一年生の新たな5人の問い合わせに結びきました。

(2) 支援内容の充実

- ① 利用者お一人おひとりが、安心して地域生活を送ることが出来るための支援を、関係各機関と連携を取って進めました。特に計画相談制度における、計画相談員との連携による利用者様のご希望に沿った適切な支援に努めました。
- ② わくわくクラブは、社会参加を重視し、あらゆる機会をとらえて地域の方達との交流を図ってまいりました。また、希望者には業者請負作業を通じての社会参加の機会を提供し、自主生産品の充実、さらには、スポーツや音楽、作品展などの地域行事参加を支援メニューに取り入れて、より、豊かな社会参加を実践いたしました。利用者様の安心、安全、楽しむ、成長を実感できる生活の支援に努めました。
- ③ 特に、5月の愛媛県障がい者スポーツ大会には7人が参加され、スポーツをする楽しさを通じて、障がいをもつ方の社会参加を推進しました。

(3) ネットワークづくり

一年に数回、ご家族に来所していただき、ご家族と利用者・職員の交流及び、ご家族間の交流の場を設定いたしました。特に6月の家族交流会は意義深い交流の場となりました。

その他、障がい者支援関連機関との連携を密にして、利用者様が、より豊かな社会参加を実現していくように支援致しました。

3、研修計画

(1) 施設内研修

- ・職員全体会・スタッフ会・フロア会(月1回)

職員の資質向上に向けてコミュニティハウス三恵での職員研修を実施しました。館内各委員会(虐待防止・リスクマネージメント・感染予防等)による研修及び法人人材バンクの活用、外来講師による研修等を行いました。特に、当施設勤務PTによる、「生涯にわたる発達の理解」は、福祉施設職員として人権をどうとらえるかという基本理念に繋がる講習を全体会の場で受けることができました。

- ・介護福祉士等国家資格取得支援(適時)

職員の資質向上に向けて介護福祉士取得を推奨し、すでに資格取得した先輩職員から、資格取得のための支援・指導を行いました。わくわくクラブでは、新たに2名の介護福祉士資格取得者が誕生しました。

(2)施設外研修

- ・三恵会法人研修に積極的に参加しました。

・先進福祉施設や福祉関係機関からの研修情報を活かし、毎日の支援の根拠となる研修参加をしてまいりました。また、近隣施設・保育園の見学や、福祉関係機関の見学・研修をしてまいりました。

3. 行事計画

4月	5月	6月	7月
・お花見(弁財天公園) ・東雲競技場での運動 ・放課後等デイサービス新規利用者受け入れ	・愛媛県障がい者スポーツ大会参加 ・東雲競技場での運動 ・タマネギ販売(館内) ・医師の健診	・家族交流会(7家族参加・陶芸絵付け体験等) ・陶芸作品製作 ・おやつ作り ・特別支援学校実習生受け入れ	・夏祭り(合同行事) ・福祉の集い参加 ・マリンパーク外出 ・ジャングルフェス(銅夢新居浜)
8月	9月	10月	11月
・児童デイサービス外出(アンパンマンミュージアム・西条鉄道博物館) ・おやつ作り ・医師の健診	・滝の宮公園 ・マイントピア別子 ・おやつ作り ・消防訓練 ・高知市・桂浜方面遠出外出	・池田池公園外出 ・地方祭(太鼓台見学) ・生き生きフェスティバル ・池田池公園外出 ・放課後デイサービス買い物訓練	・神郷校区文化祭 ・やすらぎ文化祭 ・黒島公園外出 ・医師の健診 ・あかがねミュージアム見学 ・特別支援学校実習生受け入れ
12月	1月	2月	3月
・十全総合病院クリスマスコンサート参加 ・クリスマス会 ・もちつき ・イオン作品展参加 ・忘年会	・初詣 ・成人のお祝い ・じゃがいも販売 ・おやつ作り ・冬の七夕飾り出品(商工会議所長賞受賞)	・節分 ・カラオケ大会 ・買い物訓練 ・医師の健診 ・今治(大潮荘)での食事会 ・放課後デイ食事会	・ひな祭り ・歓迎会 ・消防訓練 ・マリンパーク外出 ・特別支援学校卒業生受け入れ開始

※毎月、清掃ウォーキング・体育館での運動・図書館利用等も行う。

放課後児童クラブ
ともだちパーク

平成27年度 事業報告書

放課後児童クラブ（ともだちパーク）

1. 経営方針

(1) 働く女性の支援

『安心して子どもを育てながら、働きたい』の働く女性支援の原点に、安全に生活が出来る場所として、子どもたちの成長を保護者の方と一緒に喜びあうことが出来ました。

(2) 交流の場

今年度は、1年生の利用者が23人と前年度に比べ大幅に増えました。また、卒業生も3名送り出すことが出来ました。いろいろな地域から子ども達が来て異年齢とのかかわりの中で、子ども達も色々な経験や友だちとのつながりが出来ているのを実感する出来事がたくさん有りました。

また、高校に入学して、絵本や玩具等持つて来てくれ、学校の報告に来てくれる人もいました。

(3) 民間の児童クラブの特徴

早朝・延長時間の受け入れ・学校が台風などで臨時休校になった場合の受け入れ・長期休暇時の行事の充実・昼食の提供・高学年の受け入れ・他校との交流・高齢者との交流など、保護者のニーズに添った運営をしてまいりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 利用児童の定員確保・料金の見直し

- ・年度当初は1ヵ月5日以上利用者36人以上の確保に努め、途中から平日構成する児童数平均36人~45人を目指し、年間平均37.6人になりました。
- ・川東地区の小学校の新入生に向けて小学校健康診断の日に案内書を配布
- ・三恵会、十全グループの職員割引（登録料）を実施
- ・パンフレットの見直し
- ・重要事項説明書を説明し、利用者保護者の同意書を頂く
- ・愛顔の子育て応援アプリ『きらきらナビ』からも、ともだちパークの情報を検索することが出来るようになりました。

(2) 放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定

- ・来館時の手洗いやうがいを行い健康管理の徹底
- ・流行性の疾病対策、室内などの消毒
- ・学校へ各学年の下校時間に合わせてのお迎えと共に交通安全
- ・ひとりひとりへの言葉かけの配慮とともに保護者への連絡

(3)遊びや宿題等の学習活動に関する援助

- ・玩具の安全確認や正しい遊び方など、ひとりひとりに寄り添いながら集団遊びへの誘導
- ・来館後に宿題が取り組める環境を整え、声かけを行いサポート

(4) 基本的生活習慣の習得に関する援助

- ・自分の持ち物の片付けや遊んだ物の片付けの声かけ
- ・食事やおやつなどのマナーや来館時のあいさつなどの指導
- ・良い事・してはいけない事の区別がつくよう声かけ

(5)発達支援児への対応

- ・家庭や学校との連絡を取りながら、学童での生活に慣れる工夫を行う

(6)職員の心構え

- ・フロア会を隨時行い、共通意識を持ち取り組む
- ・研修会に積極的に参加し、指導員としてのスキルアップを目指す
- ・放課後児童支援員認定資格を取得
- ・無駄のないよう意識を持つ

(7)交流

- ・にこちゃんパーク・おいでんやとの交流
- ・館内合同行事の参加（誕生会・夏祭り・スタンプラリー・もちつき・館長杯カラオケ大会等）

3. 研修計画

- ・第10回 愛媛学童保育講座
- ・第40回 全国学童保育指導員学校（四国大会）
- ・平成27年度 放課後児童支援員認定資格研修

4. 行事報告

1学期	東浜公園・お話会（回転木馬）
夏休み	<ul style="list-style-type: none">・合同行事～夏祭り・誕生会・プール遊び・多喜浜体育館で運動遊び・東浜公園・陶芸の絵付け・工作（紙皿ブーメラン・こま等）・虫取り・ホットケーキ作り・お楽しみ会（すいかわり・ゲーム・かき氷など）・高専出前講座『液体窒素の実験』・出前講座『たまごと楕円の積木あそび』『交通安全教室』 『お話会（回転木馬）』・ボランティア『押し花制作』・にこちゃんパークの誕生会等
2学期	<ul style="list-style-type: none">・合同行事～もちつき大会・スタンプラリー・敬老の日プレゼント作り・生き生きフェスティバルの作品作り・クリスマスの飾り付け・避難訓練・山根公園・牛乳パック工作・やすらぎの郷文化祭と神郷地区文化祭に作品展示・にこちゃんパークの誕生会等
3学期	<ul style="list-style-type: none">・初詣（八幡神社）・合同行事～館長杯カラオケ大会・東浜公園・こま作り・牛乳パック工作・紙飛行機・なわとび・避難訓練・にこちゃんパークの誕生会等
<外出>	<ul style="list-style-type: none">・東浜公園・黒島海浜公園・山根公園・多喜浜体育館
<出前講座>	<ul style="list-style-type: none">・液体窒素実験（高専）・「回転木馬」による本の読み聞かせ・たまごと楕円の積木あそび・交通安全教室
<ボランティア>	<ul style="list-style-type: none">・押し花制作

※ 毎月 「おいでんや」との交流を実施

※ 随時 「にこちゃんパーク」との交流を実施

地域子育て支援事業(ひろば型)
にこちゃんパーク

平成27年度事業報告書

地域子育て支援事業 (にこちゃんパーク)

1. 経営方針

(1) 交流の場と居場所の提供

乳幼児の親子が安心して過ごせる場所として、いつでも予約無しで利用でき、ゆったりとした雰囲気が喜ばれております。ここに来ると「ホッとする」「とても落ち着く」などの声が聞かれました。

(2) 子育て相談

子育て中の親子同士の出会いを通して、情報交換など交流も見られました。

上のお子さんが幼稚園に入園された後も下のお子さんを連れて来られ、幼稚園での様子を聞かせていただき、幼稚園での悩みなどにも対応しました。

(3) 情報の共有

新たに子育て支援事業が増え、支援事業の広がりも実感しています。

市役所（子育て支援課）を中心に、子育て支援事業全7施設で、情報交換を行い、交流を持つことで、よりよい支援に繋げました。

2. 重点課題と具体的な取組

(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

- ・週4日間、月・火・木・金曜日を基本として開所
- ・年齢に応じたおもちゃを準備し、安全に過ごせるように

(2) 子育て等に関する相談、援助の実施

- ・市政によりに開所の曜日・時間を記載していただき、電話での相談を受ける。
- ・日ごろの対話を大切に行い、その都度援助が出来るよう心がけて相談を受ける。
- ・相談状況の記録を残す。
- ・子育て支援課の紹介で、子育てに不安な親子（母親）が来館し、親子のかかわり方など様子をうかがい、子育て不安が少しでも解消できるようにかかわりを持ちました。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・市役所のホームページに、にこちゃんだよりの掲載、川東の公民館や十全総合病院にもにこちゃんだよりをおかさせていただきました。
- ・愛顔の子育て応援アプリ『きらきらナビ』からも、にこちゃんパークの情報を検索することが出来るようになりました。
- ・利用者様の口コミでも、新しいご利用者様も増えてきました。
- ・児童センター、子育て支援センターの予定表やお便りを掲示
- ・毎月の行事予定や最近の活動報告を写真で記載したお便りを発行
- ・子育て支援に関する新聞記事や講演会などの紹介

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・つくってあそぼうで毎月季節が感じられるおもちゃ作りを紹介
- ・回転木馬（お話会）や大五木材（木の玉プール）のボランティアに定期的に来て頂く
- ・館内合同の行事やボランティアの行事に参加して頂き、館内を知つて頂くと同時に子育てにゆとりが持てるような環境を作る

3. 研修計画

- ・市役所（子育て支援課）を中心に、子育て支援事業施設・全7施設の連絡協議会（年6回）に参加

4. 行事計画

めあて：季節を感じながら親子で楽しく過ごす

毎月：お話会（回転木馬さん）・誕生会（写真と手形入り誕生カード）

つくって遊ぼう（工作）・身体測定（成長記録カード）

子育て相談

随時：小学生・高齢者・障がい者との交流

昼食タイム（12:00から13:00）

	つくって遊ぼう	誕生会・その他
4月	かぶと	絵本・パネルシアター・エプロンシアター 変身折り紙あそび 小学生による誕生会（絵本・歌・踊り）
5月	時計	手遊び歌・絵本・紙芝居・パネルシアター エプロンシアター・しゃぼん玉あそび リズムあそび（親子の触れ合いあそび）
6月	クルクルストロー	小学生による誕生会（絵本・歌・紙飛行機） 手遊び歌・絵本・ペーパーサート・紙芝居 パネルシアター
7月	七夕笹飾り	木の玉プール（大五木材）・小学生と交流 館内合同（夏まつり）・うちわシアター 絵本・手遊び歌・パネルシアター・組み木
8月	ころころ水槽	小学生による誕生会（手遊び歌・絵本・イス とりゲーム等）・小学生と交流（積木あそび） 手ぶくろシアター・エプロンシアター パネルシアター
9月	紙パックフリスビー	絵本・手遊び歌・避難訓練・わらべ歌あそび 紙芝居・パネルシアター・バルーンアート
10月	太鼓台作り	ふれあい遊び・パネルシアター・絵本 パタパタシアター・紙芝居・手遊び歌 高齢者との交流
11月	風車	絵本・手遊び歌・校区文化祭に写真展示 小学生との交流・パタパタシアター ペーパーシアター・パネルシアター

12月	クリスマスツリー	木の玉プール（大五木材）・絵本・手遊び歌 パネルシアター・リズムあそび（楽器） エプロンシアター・紙芝居
1月	鬼のお面	年賀状・絵本・パネルシアター・手遊び歌 小学生との交流・折り紙あそび・組み木
2月	ひなかざり	親子昼食会・絵本・手遊び歌・紙芝居 パネルシアター・楽器あそび
3月	ペットボトルマラカス	木の玉プール(大五木材)・避難訓練・紙芝居 エプロンシアター・絵本・しゃぼんだま パネルシアター・ふれあいあそび・楽器遊び

ユニット型地域密着型老人福祉施設
うみかぜ

平成27年度事業報告

ユニット型地域密着型介護老人福祉施設うみかぜ

1. 経営方針

平成27年度は介護保険制度の大幅な改正と介護報酬の引き下げにより、厳しい施設運営になると予想していましたが、法人経営戦略プロジェクトに沿いながら、毎月職員に対して経営状況の計数報告をすることで、一人ひとりが経営的視点を持つことができるようになり、予算通りの経営に繋げることができました。

開設4年目となり、ユニットケアの基本である『利用者様の傍において声を聴き、生活を支えながら「願い」や「希望」をかなえていく』を職員が再認識しケアの見直しを実施しました。経営的に1ユニット介護職員を5.5名以上配置することは困難であるため、夜勤体制を変更（16時間→8時間）し、職員の負担軽減と共に日中の人員を多く配置し寄り添える時間を確保しました。利用者様の希望であるユニット活動や外出を多く実施できるようになり、QOLの向上に繋がったのではないかと思います。

短期入所生活介護事業所では、稼働率85%の目標を掲げ取り組んできましたが結果稼働率78.1%でした。居宅や病院との連携をより一層深め、緊急時の受け入れも積極的に行い、定期的な利用に繋がるように努力しました。利用者様の体調変化による入院や他施設入所により、キャンセルやプランの変更等が生じ稼働率が伸び悩みました。

地域との交流については、地域の自治会員として運動会、芋たき、文化祭等に積極的に参加し信頼関係を深めてまいりました。又恵海で開催している「恵海まつり」や「移動販売」は地域の方に周知されはじめ、毎回多くの方に参加して頂けるようになり、職員一同心より感謝しております。

2. 重点課題と具体的な取り組み

（1）「誠実な福祉」の実践

- ①認知症介護実践リーダー研修修了者が核となって、定期的に学習会やユニット会を実施し認知症対応力の向上に努めた。
- ②「施設ケア向上委員会」を中心に、接遇を見直し明るく建設的で積極的な職場風土を目指し取り組みました。衛生管理者による「職員の健康を守る活動～働きやすい職場を目指して～」を法人の研究発表にて報告し優秀賞を受賞した。

（2）「確実な知識と技術」の修得

- ①スライディングボード等を導入し、利用者・介護者共に安全・安楽な介護を定着化することができた。
- ②毎月、各部署目標に対しての振り返りを実施し、達成に向けて取り組みケアの向上を図ることができた。

③介護力向上では「トイレで排泄できるために」のテーマで法人の研究発表に参加し最優秀賞をとることができ、職員のモチベーションアップに繋がった。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

①ショート稼働率は目標を達成できなかった。「月初めの稼働の低迷」「キャンセル後の対応不足」等の課題も見えたため今後に繋げていきたい。

②入所基準の変更などに応じて、事前の利用者様の情報収集に努め、待機者の方がスムーズに入所できるように努めた。

③健康状態の把握と早期受診に心がけ、入院による長期空床を軽減できた。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

①全職員対象

- ・緊急時の対応（1回）
- ・認知症ケア（2回）
- ・グループ討議（1回）
- ・各種指針に基づいた研修（9回）
- ・介護技術講習会（2回）

②介護・看護対象

- ・喀痰吸引研修の実地研修

(2) 施設外研修

- ・愛媛県主催認知症介護実践者研修
- ・青年経営者協議会主催研修会
- ・愛媛県地域密着型サービス事業所各種研修会
- ・四国老施協主催セミナー
- ・愛媛県、東予地区老人福祉協議会主催の各種研修会
- ・愛媛県喀痰吸引研修会
- ・日本福祉車両財団主催講習会
- ・ユニットケア推進協会リーダー研修
- ・介護労働安定センター主催の研修会
- ・西条保健所主催研修会

4. 行事実績

(1) 毎月の共通行事

- ・誕生会（個別）
- ・ユニット活動（手作りおやつ、作品作り、個別外出）
- ・選択食
- ・モーニングサービス形式の朝食
- ・3B体操
- ・生け花
- ・移動販売

(2) 月別行事

- | | | | |
|-----|----------------------|-----|-------------------|
| 4月 | 花見・音楽レクレーション | 5月 | 手品とハーモニカ演奏 |
| 6月 | 多喜浜保育園児訪問・観音大祭・恵海まつり | 7月 | ソーメン流し |
| 8月 | すいか割り・ビアガーデン | 9月 | 高齢者顕彰・敬老会・いもたき |
| 10月 | 運動会・太鼓台訪問 | 11月 | 自治会文化祭・にぎり寿司バイキング |
| 12月 | もちつき・クリスマス会 | 1月 | 初詣・お茶会・あざれやコーラス |
| 2月 | 節分・にぎり寿司バイキング | | |

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流の実施

- ・恵海まつり ・運営推進会議（1回/2ヶ月） ・移動販売
- ・自治会運動会、文化祭、芋たき会に参加 ・ニチイケアセンター祭りに参加

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動 地域清掃（12回）

②ボランティア受け入れ状況

第1興商、ミスターマリック、愛媛銀行、大西社中、高津っこ、琴衛会
あざれやコーラス

グループホーム
かがやき

平成27年度事業報告

グループホームかがやき

1. 経営方針

平成27年度は、昨年度に引き続き「一緒に生活する」「尊厳を守る」をケアの基盤とし同じ目線で寄り添い、利用者様が混乱せず生活ができ「かがやき」が居心地の良い居住空間となるよう取り組みました。利用者様の思いやニーズを職員間で共有し日々の接し方や声掛けなどを工夫、改善してまいりました。

又、利用者様の「思い」やご家族の「願い」を大切にし、希望を持ち元気で明るく穏やかに生活できるよう、利用者様のそれぞれの誕生月に願いを叶える「夢プラン」を実施しようと取組みました。真のニーズを把握するためにアセスメントの見直しを実施し、担当者だけでなくユニット内で共有しチーム全体で計画、実行し生きがいを持って生活できるよう支援いたしました。

常に利用者様の安全・安心を確保することを念頭に支援いたしました。疾病の重度化の防止については体調の変化を敏感に察知し、家族と相談し早めの受診に心がけました。事故については、ヒヤリハットを多く出すことを呼びかけ分析し適切なアセスメントをすることで事故を未然に防ぐよう努力いたしました。

認知症ケアについては定期的に勉強会を実施し、外部研修にも多く参加しました。認知症高齢者の心理的理を深めると共に専門職として資質の向上に努めました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①施設で移動販売を実施し、地域や近隣の施設の方と交流を図った。
- ②ドライブや買い物等を気軽に個別で実施する機会を増やし、利用者様の笑顔を多く見ることができた。
- ③「うみかぜ」合同の各委員会の向上に力を注ぎ活性化することでリーダーの輩出に繋がった。

(2) 「誠実な知識と技術」の修得

- ①認知症実務者研修1名参加し修了する。内容をユニット会等で共有に努めた。
- ②「夢プラン」を通じてアセスメント力を高めようとしたが、チーム全体での取り組みとならなかつたため課題が残った。
- ③介護福祉士1名合格、地域密着型サービス協会主催の研修に多く参加した。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①定期的に待機者の情報を収集し、退所後即入所できるように取り組みました。
- ②健康状態の把握と早期受診に心がけ、入院による長期空床を防ぐことができた。

3. 研修実績

(1) 施設内研修（全職員対象）

- ・緊急時の対応（1回）
- ・認知症ケア（2回）
- ・グループ討議（1回）
- ・各種指針に基づいた研修（9回）
- ・介護技術講習会（2回）

(2) 施設外研修

- ・愛媛県主催認知症介護実践者研修
- ・西条保健所主催研修会
- ・愛媛県地域密着型サービス事業所各種研修会
- ・日本福祉車両財団主催講習会
- ・愛媛県、東予地区老人福祉協議会主催の各種研修会
- ・介護労働安定センター主催の研修会

4. 行事実績

(1) 毎月の共通行事

- ・誕生会（個別）
- ・ユニット活動（手作りおやつ、作品作り、個別外出）
- ・選択食
- ・モーニングサービス形式の朝食
- ・3B体操
- ・生け花
- ・移動販売

(2) 月別行事

- | | | | |
|-----|----------------------|---------------|-------------------|
| 4月 | 花見・音楽レクレーション | 5月 | 手品とハーモニカ演奏 |
| 6月 | 多喜浜保育園児訪問・観音大祭・恵海まつり | 7月 | ソーメン流し |
| 8月 | すいか割り・ビアガーデン | 9月 | 高齢者顕彰・敬老会・いもたき |
| 10月 | 運動会・太鼓台訪問 | 11月 | 自治会文化祭・にぎり寿司バイキング |
| 12月 | もちつき・クリスマス会 | 1月 | 初詣・お茶会・あざれやコーラス |
| | 2月 | 節分・にぎり寿司バイキング | |

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流の実施

- ・恵海まつり
- ・運営推進会議（1回/2ヶ月）
- ・移動販売
- ・自治会運動会、文化祭、芋たき会に参加
- ・ニチイケアセンター祭りに参加

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動 地域清掃（12回）

②ボランティア受け入れ状況

第1興商、ミスター・マリック、愛媛銀行、大西社中、高津っこ、琴衛会
あざれやコーラス

兒童福祉施設
中萩保育園

平成27年度 事業報告

1、経営方針

すべての子ども達が、笑顔で成長していくために。すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるために。「子ども・子育て支援新制度」が27年4月よりスタートしました。計画的に取り組みを進めるために市町村は、新制度開始から5年間を計画期間とする「市町村子ども子育て支援事業計画」をつくり取り組んでいます。新制度では保護者の勤務状況に応じて短時間保育、標準時間保育と保育園の利用の仕方が変わっていますが、保護者は混乱することなく利用できています。27年度は、新制度、新体制のもと中萩保育園の独自性を發揮し、保育内容の充実に努めてきました。

全国的には待機児童、保育士不足など課題は山積みですが、中萩保育園は、今後も「子ども一人一人の発達に寄り添った保育の実践と信頼して頂ける保育園づくり」を基本に取り組んでいきます。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

①安心安全な保育環境・生活の確保

- ・2階階段に柵の設置、幼児保育室に網戸の設置
- ・ヒヤリハットを細かくとらえ記入することで、職員の安全保育に対しての意識が高まり大きなケガに繋がることはなかった。今後も乳幼児期の子どもの発達を理解し、保育士一人一人が危機管理意識をもって安全保育に心がけたい。

また、保育室・廊下・階段などの消毒を毎日行うことで感染症予防に努めた。保護者への情報提供にも努めたが、保護者の安易な考えで登園したことで感染症が広まったケースもある。今後、保護者へ周知ができるよう考えていきたい。

②子ども達一人一人の健やかな発達を促す保育

- ・各年齢に合った基本的生活習慣の確立では、個人差を踏まえその子に合ったペースで丁寧な保育に心がけた。今後も焦らず丁寧に関わっていきたい。

また、天気の良い日は、戸外遊びを通して体力づくり（マラソン、ゲーム、鉄棒等）に取り組んできた。白山神社やキラキラ公園まで散歩に行き自然に触れる機会を大切にした。散歩を通して交通ルールを身に付けるよう取り組んでいる。今後も心身ともに健やかに成長できるよう保育していきたい。

③専門機関、教育機関、他施設との連携

- ・発達支援課による巡回相談、就学前相談を受け、支援を必要とする子どもが無理なく集団生活を送れるよう取り組んでいる。また、保健センター、子育て支援課、東予子ども女性支援センターと連携を取りながら母親支援を行っている。今後も各機関と連携を取りながら子どもの発達を支援していきたい。
 - ・視聴覚センター、鷹ノ子病院の医師との連携。
 - ・住友病院眼科による年中児の眼科検査、発達支援課による年中児の発音検査を行い、早期発見早期治療を進めている。
 - ・中萩小学校での幼保小連絡協議会への参加。授業参観、話し合いによる情報交換を行った。卒園児が小学校で無理なく生活ができるよう今後も交流していきたい。
- 各機関との連携は今後も大切にしていきたい。

④老人施設や地域子育て家庭との交流（行事への呼びかけ）

- ・老人施設むつみの家と連携を取り災害時の協力体制を話し合ったり、夕涼み会、クリスマス会等の行事に招待したり、慰問に行ったり交流を深めている。

⑤危機管理対策

- ・毎月、各災害を想定しながら避難訓練を実施。問題点、反省点を職員間で話し合い子ども達が安全に避難できるよう取り組んでいる。また、災害時の引き渡しカードを作成している。保護者が防災マニュアルを閲覧できるよう廊下本棚に配置している。戸外、廊下、階段掲示板に避難経路を掲示し保護者に知らせている。
- まだまだ防災に関しての意識が低いので、今後も職員間で話し合い防災についての意識を高めていきたい。

（2）「確実な知識と技術」の修得

①各職種の専門性を活かし子どもの発達に合った保育の取り組み

- ・保育園で働く全ての人が子どもに対しての人的環境である。言葉遣い、身だしなみ、行動等、子どもの成長に与える影響は大きい。職員一人一人が丁寧に子ども達に関わり保育するよう心がけている。看護師による健康観察、栄養士による食育活動、アレルギー児の除去食、保護者懇談を行った。

②各活動の内容及び目標を明確にし、より良い保育の実践

- ・保育課程に基づいて各クラス年指導計画、月指導計画、週（日）指導計画、個人別月指導計画、個人別週（日）指導計画、各行事の指導計画を立て、ねらいをもって保育に取り組んでいる。今後も子ども達が安心して生活でき、成長できるよう取り組んでいきたい。

③職員研修の重視（技術のスキルアップ支援）

- ・三恵会主催の研修、保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修等に参加し資質向上に努めた。若い職員が多いので今後も経験を重ねながら成長してほしい。

④福祉人の育成（三恵会理念、行動指針の理解と実践）

- ・毎日、三恵会理念、行動指針を唱和しながら理解を深めていった。まだまだ未熟だが職員は、一生懸命に頑張っている。

（3）「堅実な経営」の実践

①危険な個所のチェックと安全確保（老朽化対応、修繕）

- ・保育室、園庭遊具等の安全チェックを行い、危険個所は随時修繕を行った。
幼児用プール、ジャングルジムが老朽化のため、廃棄し、新しく購入した。

②適切な運用と経費削減への積極的な取り組み

- ・職員間で話し合い無駄をなくすよう取り組んできた。中でも、水道高熱費、印刷製本費削減に繋がった。

③職員の定着化

- ・日々、忙しく業務に追われている中にも、子どもの成長、保護者からの声かけを通し、保育に対してのやりがいを感じながら仕事ができるよう、今後も働きやすい環境の整備を進めていきたい。

④入所児童数のバランス調整と確保

- ・今後も保育室の面積、職員数に応じた入所児童数を確保していきたい。

⑤福祉と医療の連携したサービスの提供

- ・園児健康診断を十全総合病院小児科医・占部先生、園児歯科検診を藤田歯科クリニックの藤田先生に年2回行った。その結果は、保護者に伝え早期治療に繋げている。

3、研修実績

（1）施設内

職員会、給食検討会、けがの報告、安全対策委員会、先任者会、主任会

（2）施設外

保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修、

保育協議会部会（園長、主任、幼児、乳児、障がい児、給食）

日本保育部会（園長、主任、給食）、就学前人権同和教育

三恵会本部主催の研修

4、行事実績（年間）

- 4月 入園式、家庭訪問、園児健康診断、園児蛲虫検査、園児歯科検診、年長児発音検査、野菜収穫
- 5月 遠足、保育参観（試食会）、年長児眼科検診、看護の日（第二十全より花プレゼント）
- 6月 夕涼み会、プール開き、マクドナルドより交通安全によるお話
- 7月 プラネタリウム見学、七夕集会
- 8月 プール大会（バイキング給食）、年中児眼科検診、
- 9月 ちろりん劇場観覧、敬老の日ハガキ投函、
- 10月 運動会、お祭り集会、交通安全教室、生き生きフェスティバル作品出展、やすらぎの郷文化祭鼓隊演奏・作品出展、園児健康診断、園児歯科検診、園児蛲虫検査
- 11月 親子遠足、シルエット劇場観覧、プーク人形劇観覧、職場訪問、中秋文化祭作品出展、火遊び防止教室
- 12月 保育参観、おもちつき、クリスマス会、むつみの家クリスマス会参加、新入園児申請書受付、在園児家庭現況届提出
- 1月 もうすぐ1年生撮影
- 2月 節分、たのしいおあつまり（発表会）、祖父母招待、記念撮影
- 3月 ひな祭り集会、交通安全教室、お別れ遠足、お別れ会、卒園式
＊毎月実施…誕生会、避難訓練、身体測定、異年齢児交流、食育活動

5、地域交流、ボランティア、実習性

（ア）地域交流状況

ちろりん劇場、夕涼み会、運動会、発表会などに地域の方を招待した。

（イ）実習性受け入れ

大阪こども専門学校（1名）

松山東雲短期大学（1名）

（ウ）体験学習の受け入れ

中萩中学生（83名）

養護老人ホーム
新居浜市立慈光園

平成27年度 事業報告

新居浜市立慈光園

1. 運営方針

利用者の心身の低下による支援の増加や、新たな利用者も要介護度を持った方が多くなるなど自立生活困難者の増加に伴い、利用者の自主性を尊重しながら一人ひとりの有する能力に応じた処遇の向上に向け、デイサービスなどの介護保険サービスの利用や地域交流、園内での諸行事を通じて健康維持や日常生活での自主性をそこなうことなく安心して穏やかに送れるように支援に努めてまいりました。

また、医療機関や介護福祉施設と連携を図り、生きがいを持って日常生活を送れるよう自立支援に必要な有効なサービスの有効利用を進め、利用者の生活力を高め社会参加の助長を継続して行う事を指定管理者として支援してまいりました。

2. 重点課題と具体的取り組み実績

(1) 利用者本位の支援の充実(誠実な福祉)

- ①利用者個々の特性を把握し、個々の状態に合わせた処遇計画を作成し、掃除、洗濯、着替えなど日常生活の動作を可能な限り自分で行えるように努めました。
- ②利用者の朝礼において唄、軽体操の実施による健康維持を図りました。
- ③生きがいを持って過ごしていただけるよう、クラブ活動、カレンダー作り、レクレーションの実施や他の団体が主催する各種イベント出展への創作活動などを積極的に推進し、生活意識の向上に努めました。
- ④共同作業で庭木の手入れ、草引きや菜園での花や野菜作りにより自立した生活を促すよう努めました。
- ⑤嗜好調査により希望を考慮し、季節感や彩に配慮したおいしい食事の提供に努め、衛生管理と食品管理を適正に行いました。
- ⑥昨年受審した第三者評価機関の評価内容を検討改善し良質なサービスの提供に努めています。

(2) 地域社会に貢献できる施設づくり(誠実な福祉)

- ①夏祭り（盆踊り大会）を開催し地域住民の方々の参加をいただき交流を進めてまいりました。
- ②金栄小学校や公民館が主催する文化祭、運動会などに積極的に利用者が参加するよう努めました。
- ③清掃活動を当園近隣で月1回程度実施し、金栄小学校の1年生を対象とした下校時の見守り活動を実施しました。

(3) 地域の社会福祉資源の有効活用（確実な知識と技術）

- ①当園での生活が困難となった利用者に対し嘱託医、協力医療機関や介護関係事業所等と連携し、その人に適した施設へ処遇替えに努めました。
- ②処遇計画に基づき、デイサービスなどの介護サービスの利用により、心身の健全化に努めました。

(4) 人材育成の推進(確実な知識と技術)

- ①職場での勉強会開催や老人福祉施設協議会等が開催する各種研修会に参加し知識と技術の向上と福祉資格の取得を図ってまいりました。
- ②ケース検討会や事故防止委員会等に置いて個々の問題解決を図ることにより職員の資質の向上に努めました。

(5) 効率的な施設運営(堅実な経営)

- ①物品の適正な在庫管理に努めるとともに購入にあたっては見積りを取るなどの経費削減に努めました。
- ②デマンド量の監視契約により電気使用量状況を把握・抑制に努めるとともに、利用者に節電を呼び掛け、電気料金の減少を見ました。
- ③利用者のデイサービス利用時や、外出時の食事が不要な場合に欠食届出を行うよう徹底し無駄の排除に努めました。

3. 研 修

(1) 施設内研修

- ①職員全体会での研修
介護技術の向上、個人情報の保護、感染症事故防止対策、各種研修報告会等

(2) 施設外研修

- ①老人福祉施設協議会（愛媛県・東予地区）の研修会
- ②愛媛県社会福祉協議会、新居浜市社会福祉協議会主催の研修会
- ③西条保健所主催の研修会

4. 行事報告

- 4月 草引き
- 5月 苺葉見学・草引き・花の種まき・庭木手入れ
- 6月 菖蒲見学
- 7月 七夕飾り・ラフターヨガ
- 8月 盆踊り大会
- 9月 敬老会
- 10月 ふれあい大運動会・生き生きフェスティバル・お買い物のツアーワーク
- 11月 グランドゴルフ

- 12月 クリスマスコンサート・餅つき大会
- 1月 新年福笑い大会・冬の七夕参加
- 2月 節分・新年お楽しみ会
- 3月 花見歩行会

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・慈光園夏祭り
- ・いきいき幸せフェスティバル
- ・金栄校区盆踊り
- ・金栄校区文化祭
- ・金栄小学校ツリー点灯式
- ・春秋の太鼓台訪問
- ・ウェイトリフティング餅つき大会

(2) ボランティア受入

- ・書道クラブ
- ・絵手紙クラブ
- ・お話会クラブ
- ・唄クラブ
- ・さくら乳児園
- ・十全保育園
- ・西中学校
- ・金栄小学校
- ・一宮グループ
- ・山雄会
- ・スリーホールズ（ハーモニカ演奏）